

幼小中つながる通信 vol.92

発行：令和4年2月25日 袋井市教育委員会

日本の学校で学ぶために ～袋井市教育委員会「初期支援教室」～



【教育会館 2 階初期支援教室での様子】

初期支援教室

初期支援教室とは？

本市の小中学校には約 350 人（全体の 4.4%）の外国につながりをもつ児童生徒が在籍しており、近年、ますます増加する傾向にあります。

そのような子どもたちに対し、言葉の習得や学校生活に馴染めるよう支援するのが、教育会館 2 階にある初期支援教室です。就学後 12 週間、支援員や通訳の指導を受けながら、基本的な日本語や日本の生活習慣、学校生活について学び、子どもたちの学校での戸惑いや課題が、できる限り解消されるよう取り組んでいます。

日本の授業を体験

1 月 24 日からの 2 週間、4 月から小学校へ入学する外国につながりをもつ幼児とその保護者を対象に、授業体験会を開催しました。小学校の授業について説明したほか、日本の文化を体験しながら日本語や生活習慣を学ぶ内容となっており、この日は、子どもたちが実際に豆まきを行って、昔から伝わる「節分」の意味を楽しく学びました。

教育員会では、外国につながりをもつ子どもたちやその保護者の皆様が、安心して小学校生活をスタートさせることができるように努めています。



「おにはそと！」「ふくはうち！」

